

# 街を行く

第71回 苫小牧 Tomakomai

## 企業城下町、今後の顔は？

「苫小牧」いったらコレというものがあるのですが、皆さんは何を思い浮かべるでしょう？ 子供時代に地理や社会科の授業で習ったかと思いますが、ここは製紙業で有名な企業城下町です。室蘭本線に揺られ駅に着けば、王子製紙・苫小牧工場、白煙をムクムク吐く街のシンボル「三本煙突」が出迎えてくれます。

連載を通じて小生、数多くの企業城下町を紹介してきましたが、苫小牧はまさしく「城下町の中の城下町」です。かつてよりも企業色は薄まっているようですが、街なかの大きな建物はほぼ王子製紙所有ですし、何より住所が「王子町」ですから言うまでもないですね。

王子製紙と聞き、紙以外で頭に浮かぶのは冬のスポーツ「アイスホッケー」でしょう。街中心部にあるアリーナを訪れると、札幌冬季オリンピックの頃を思い出しました。当時は米国とロシア（当時ソビエト）が国の威信をかけてホッケーを戦っていました。日本でもちょっとしたブームがあり、日本リーグが盛り上がった時がありましたが、最近はめっきり下火。米国ははまだプロリーグも相当盛り上がるそうで、日本と大きく違うようですね。

話を企業城下町に戻しましょう。昔は大きな企業が所在すれば、税収や雇用の恩恵を受けて街が栄えました。いまは産業構造が変化し、それだけで生き残るのはむずかしい時代です。大きな雇用も生まなくなっています。働き手は街を出てしまい、結局残るのは子供と高齢者だけとなっています。苫小牧も



苫小牧の街のシンボル、王子の三本煙突と港のタンカー

同じです。

他の同じような街と同様に、今後の苫小牧の街の重点目標は子供と老人をいかに取り込むかでしょう。情けないことに高齢化で悩む大抵の街は決まって現実逃避で見栄っ張り。来るはずもない若者向け施設を建てては集客に失敗し、ますます若者からそっぽを向かれる始末です。苫小牧はそうはせず、老人と子供たちに徹底的に優しい街づくりをすればよいと思います。

市街地を少し離れると港があります。観光フェリーやタンカーが停泊していて、このまま船でのんびり旅したい気分になりますね。小生は世界中を飛び回っていますが、のんびりできることはありません。仕事の旅なので仕方な

いですが…。

そして、いつも大きなお世話と思いつつ「街のこの先」を考えて真剣な気持ちで街を観察しています。帰路は電車で新千歳空港まで行きましたが、その距離の近さにビックリしました。

### 南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発（旧松下興産）の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。